![C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf]()園長だより　平成３０年１１月号（20181130）

園長　平澤　正則

体験を大切にする教育

　幼児教育は一口で言うと「いろいろな物を見たり，聴いたり，触ったり，感じたり，身体を動かしたりする経験から生活の基本を学ぶこと＝体験」を重視する教育といえます。幼児に限らず全ての人は体験から多くを学ぶわけですが，特に幼児期においては物事を論理的に頭の中で理解したり，想像したり，組み立てていく能力は乏しいのでどうしても五感に訴えることが理解への近道となります。そういうわけで，幼稚園や保育園ではどこでもいろいろな体験活動を取り入れています。

先日の新聞ではフィギュアスケート女子の大会優勝者，紀平梨花選手が通った幼稚園のことが紹介されていました。女子プロゴルファー横峰さくらさんの伯父さんが主宰する教育法で子どもの可能性を引き出す目的の「ヨコミネ式」を採用する幼稚園で，時折全国紙に紹介されてきました。類まれな運動神経や柔軟性に加え，ピアノ教室で培った音感も生きていると書かれていました。そこでは卒園時に跳び箱8段を跳べ，逆立ち歩きができるようになるそうです。特別な才能とその開花に意欲をもつ子どもたちに特別な教育をする「スーパー幼稚園」なるものは以前からテレビ等で紹介されてきましたが，そのような，あるいはそれに近いような園は全国を調べればたくさんあるのだろうと思います。

　教育方法において，石岡善隣幼稚園はそのような園とは対極にあると思います。教育の目的は同じはずですが，やり方が違うということです。本園では，特にこれといって力を入れて子どもたちに教え込むということはなく，世の中の多くの人が体験すると良いであろうと思われる事柄をなるべく多く体験させるということを目指しています。なるべくと言ったのは，時間には限りがあることと子どもたちが多忙感に苛まれることなく生活できる程度にしたいためです。外部講師を招いて行っている体育教室も特別な子に特別な種目を教えているわけでなく，むしろ体育が苦手な子をなくす努力に重きをおいているといえます。英語活動も同じで，英会話ができるように英語漬けにするというのではなく，地球上には膚の色や生活習慣・言葉が違う人たちが一緒に暮らしているということを実感してもらうこと，すなわち国際理解を第一の目的としています。合唱にしても，上手に歌うことは目指していますがそれが第一ではなく，歌をとおしてみんなが協力し合うということを重んじています。このように表向きには目立たない教育方法ですが，一つ一つの生活のあり方を向上させることが大切と考えています。なんだか本園の宣伝になってきました。

　さらに，子どもたちにとっては園外での生活も一つ一つ貴重です。それぞれの家庭において様々なことをされていると思いますが，特に野外での活動は子どもたちのもっている多様な能力を引き出す場として昔から重用されてきました。私が子どものころから続けているボーイスカウト活動も活動の場所は野外が中心です。野外での生活体験が後の社会人としての活躍にも大きく影響を及ぼすといわれています。「ボーイスカウト出身の著名人」をネットで検索すると実に様々な分野で活躍している人がいることが分かります。興味のある方は園長までお尋ねください。

　本日は，野外活動の一つとして別添の資料「なすかしの森　ファミリーミーティング」をお配りしました。国立那須甲子青少年の家（私が20年前に3年間赴任した場所です。）では毎年5回ほどこのような事業を展開しています。今でも東京やその近県から多くのご家庭が参加しています。

今回，一度皆さんにも紹介したいと思いました。興味がありましたら園長までお声かけください。